

農産部会活動報告

かあちゃん集会東北ブロック編
～まず食べる。楽しく交流。そして伝える!～

Report

■漬物と郷土料理がズラリ

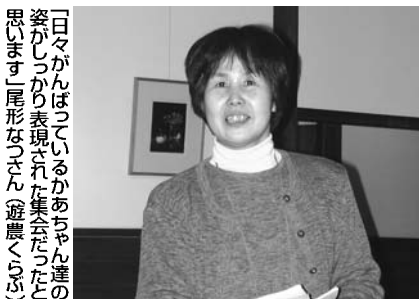
2月7、8日仙台市秋保温泉でのかあちゃん集会は初めてのロッジでの開催となりました。昔から受け継がれてきた漬物や、ご自分で工夫した新しいものなど、かあちゃんの知恵と楽しみが形となって揃った第1日目。持参していただいた漬物を机に並べ、それぞれにレシピ紹介をしていただきました。作り方はもちろん、例えば漬けた後のカブにシワを付けないなど、おいしくかつ見栄えを良くする技術の話も盛りだくさんで大賑わいの幕開けです。

どんなにウンチクがある物でも、美味しくなくては楽しく継がれてはいきません。見て話を聞くだけでなく「味わう」ことを柱にしたのが今回の集会の特徴といえるでしょう。

夜の部は、かあちゃんを中心に郷土料理を作っていたいただき、漬物と併せて存分に味わい、参加者から感想や思いを語っていただきました。

「たくさん食べて幸せな気分です。私の住む白山はだだちゃ豆の産地。明治40年から90年続く在来種で、種の選別をしてきました。とうちゃん達は米作り。白山だだちゃを守り伝えてきたのは実はかあちゃん達。今では鶴岡市全体の農産物になりましたが、作る方が多くなり、そのため種の扱いがおそろかになっています。良い種を選別して守っていきたいです。」

(庄内協同ファーム 富樫節子さん)



「日々がんばっているかあちゃん達の姿がしっかりと表現された集会だったと思います」尾形なつさん(遊農くらぶ)

すぐに確実に商売へ結びつくとは言えない在来種への取り組み。昨年より各ブロック委員の方々と模索してきた中で、東北の委員さんからの「在来種はかあちゃんに聞くのが一番! 実際かあちゃんが家の前で育てて漬物や料理に使っている。男ばかり集まって話しても始まらない」という意見。伝統料理・文化を伝えたいという思い。このふたつが重なり「かあちゃん集会東北ブロック編」の開催へとつながりました。

■知ってるようで知らなかった種の話

翌日は野口種苗の野口勲さんからの「種のお話」。昔は自給自足が普通でしたが、市場で作物が売買されるようになった頃から、地域ごとに作物作りの(選別が)上手な人が出てきて産地が形成されました。そして種取りの上手な農家さんが種屋さんの役割を担うようになり、地域の在来種も継がれてきたとのこと。

また、現在一般的に流通しているF1種^(※)についてのお話も。F1種が持つ親より優れた性質“雑種強勢”が、葉ものでは生長の早いもの果菜類では花つきが良く多収のもの、など共通の均一性があることから、種苗業者・生産者・流通業者の取扱いが多くなりました。けれどもF1種から自家採種しても2代目以降は均質な規格の作物を収穫することはできません。

F1種の親種は特定の形質を出すために繰り返し自家受粉されてきており、自家受粉の繰り返しで作物の生育が悪くなる“自殖劣性”の不安要素が常にあ

ります。最近、種苗業界でも、昔の親種を扱う野口さん(野口さんが採種している在来種は「みやま小カブ」)のような人が大事だと、見直されるようになってきたそうです。…種の作り方から種苗業界の話まで、農家にとっては身近でありながら初めて聞く話に、みなさんかなり熱心に聞き入っていました。

■食べる楽しみと在来種

当日、野口さんが扱っている多種多様な固定種・在来種をそれぞれ2種類ほど参加者全員に持ち帰っていただきました。国内・海外種様々でしたが、この中からうまく土地に合うものが出てきて自分の風土にあった種になっていくことが期待されます。

次回のかあちゃん集会では、これらの種から作った作物を持ち寄り、皆で食してみようということになりました。難しい顔をして在来種を守っていくのではなく、食べる楽しみを持った在来種への取り組みとして広がっていくようです。

(事務局・鈴木)

“当たり前”が“楽しくて新しい!!”
…かあちゃん集会はつづく

「みなさんのお話を聞いていて、いろいろな土地の文化が健康的に生き続けるにはそれを日々当たり前のごととして保ちつづけてるお母さんたちの存在が不可欠なんだと感じました!」運営スタッフとして参加した女性の言葉です。ほんとうにそのとおりと参加者の誰もが感じたことでしょう。

「“ひょう”っていうのは畑に生える雑草だけど“ひょう”として今年はいいことあるかも”っていうゲン担ぎでうちの辺りじゃ正月に必ず並ぶ料理”そんな“いわれ”がそれぞれの料理にあることを知る場に居合わせた幸運にただただ感激。この日の夕餉はどんな高級料亭よりも贅沢で豪華なものでした(たくさん持ち寄っていただいて食べきれなかったのが申し訳なかったです)。

印象深かったのは野口さんが、種を机に並べたとき。わっとかあさんたちが集まりそ

の後ろから覗き込むおとうさんたち。そのみなさんの輝いた瞳と表情に「生産者さんは種を大事に想っているのだ」と改めて感じました。「種はプレゼントです」と言うとおもるみる分配され、ミニ種苗交換会になる一幕も。おかあさんたちは、在来種を守るとか残すというよりもっとシンプルな“なんか楽しそう”という想いに敏感なのですね。“当たり前”と“楽しそう”を颯爽と行動に移してしまうその姿はほんとうにステキでした。

ご参加くださったおかあさん方、そして“やっぱりかあちゃんたちだべ”と称えていたおとうさん方、どうもありがとうございました。

「今回はまさに“種蒔き”の集会。これからも周りの人たちにどんどん種蒔きしてかあちゃん集会を広げていきましょう!」とは東北ブロック代表尾形なつさんの言葉。蒔かれた種から出た芽を、今後どう育てて実らせるか、おかあさんたちの“楽しい”と“当たり前”の知恵をぜひ拝借したいと思います。(事務局・島田)